

め殿の後のおまへに、櫻の花のかめにさゝれたるを御らんじて、かくよませ給へるとぞ、
としふればよはひはおいぬまかはあれど花をし見れば物おもひもなし、后を花にたとへ申
させ給へるにぞ、

〔今昔物語 二十二〕堀河太政大臣基經語第六

今昔堀河ノ太政大臣ト申ス人御ケリ、御名ヲバ基經トゾ申ケル、此レハ長良ノ中納言ノ御子也、
大臣身ノ才並无シテ心賢ク御ケレバ、年來公ニ仕テ、關白太政大臣マデ成リ上リ給ヒテ、糸止事
无カリケリ、亦子孫繁昌ニシテ、男女皆微妙カリケリ、

〔大鏡

太政大臣道長

〕かゝれば、女の御さいはいあるは、この北の政所藤原道長はめさせ給へ

り、御門東宮の御母后とならせ給ふ、あるは御おや、よの一人にておはするには、御子も、生れ給
はねども、后に爲させ給ふめり、女の御さいはひは、后こそきはめておはします御事なめれ、され
どそれはいと所せげにおはします、いみじきとみの事あれど、おぼろけならねば、えうごかせ給
はず、ぢんやるぬれば、女房たはやすくこゝろにまかせてもえつかまつらず、かやうにとろせ
きなり、たゞ人と申せど、御門東宮の御むばにて、三后になすらふ御位にて、千戸のみふえさせ給
ふ、年官年爵を給はらせ給ふ、からの御車にて、いとたはやすく御ありきなども、中々御見やすら
かにて、ゆかしうおぼしめしける事は、よの中のもの、なみの法會やなどあるおりは、御車にて
も、御さじきにて、もかならず御らんずめり、うち東宮みや〜と、わかれ〜こそおしくておは
しませど、いづかたにもわたりまいらせ給ひては、さしならびおはします、たゞ今二人后、東宮女
御、關白、左大臣、内大臣の御母、みかど、東宮はた申さず、おほかたよのおやにて、二所ながらさるべ
き權者にこそおはします、すらすめ、御ながらひ四十年計りにやならせ給ひぬらん、あはれにやむご
となきものに、かしづき奉らせ給ふといへばこそをろかなれ、よの中には、いにしへいまの國王